

こんにちは。5月を迎え、だんだんと暖かくなってきました。これから夏・秋にかけて、畑仕事に精を出す方、釣りや山登りを楽しむ方は大勢いらっしゃると思います。そういった屋外の活動で、気をつけて頂きたいのはハチやヘビといった毒を持っている動物です。特にハチでは大型のスズメバチ、ヘビではマムシやヤマカガシに注意が必要です。今回はこういった動物に攻撃を受けた時の応急処置をご紹介します。

こういった毒を持っている動物を見かけたらすぐにその場から離れるのが一番ですが、万が一刺された、あるいは咬みつかれた場合には、次のような処置をして下さい。

- ①刺された部位を大きくつまみ、つねるようにして毒液を体の外に出す。
口で吸うのはお勧めできません。
口の中の雑菌が傷口から入ったり、毒が口内の傷口から侵入する可能性があります。
- ②清潔な水または洗茶で傷口を洗い流します。
洗茶に含まれるタンニンには、毒を中和する性質があります。
- ③冷水や濡れタオルで患部を冷やします。
冷やすことで血流を遅くして、毒の吸収を遅らせるためです。
- ④刺されたのが手足ならば、上側を軽く縛って(血を完全に止めない程度に)下さい。
毒が全身に散らばるのを予防します。



スズメバチ



マムシ

可能であれば、この「つねる、洗う、冷やす、縛る」を15分以内で行います。ここまでできたら、早めに病院を受診しましょう。

そして、知識があってもイザとなると慌ててしまってすべて吹き飛んでしまいます。何より大切なのは、普段からイメージして練習しておくことです。皆さんもぜひ一度、刺された想定して練習をしてみてください。

都立広尾病院医師 良雪雅(りょうせつ まさし)

ミスター戸田のどこでもドア vol. 2

こんにちは！

今回は朝日通り商店街の活性化に取り組む、朝日通り8者コンソーシアムさんの取り組みを紹介します。

最近では「ハナミズキ酵母ワイン“CORNOUILLER”(コルヌイエ)」(写真)が発売されて、ニュースにもなっていましたね。

一年前はハナミズキ酵母パンを世に出してしまっていて、ハナミズキを商店街のブランドに活用しています。

二つの商品が生まれた経緯は、店主や子ども達と、コンソーシアムに参加している「シナプテック株式会社」とそのパートナー機関である「独立行政法人理化学研究所」とがタイアップして、ハナミズキの花や実、葉から酵母を取得しました。DNA鑑定や安全性試験等、最先端の技術を投入したそうです。

その酵母を使って商店内のパン屋さんが「ハナミズキパン」を発売しました。そして勝沼のワイナリーとのコラボレーションで「ハナミズキ酵母ワイン」が生まれました。

その道のプロ達の協働によって、新たな価値が生み出されているんですね。そしてその結果として、商店街がどんどん元気になっている。新しい地域づくりの方法論だと思います。

また、朝日通り商店街はWi-Fi(公衆無線LAN)の環境も整備されていますから、どこでもインターネット接続が出来ます。これはNTT東日本山梨支店とのコラボレーションで実現しました。

皆さんのお子さんやお孫さんが持っている、スマートフォンや携帯ゲーム端末等が、どこでも繋がる環境になっていますし、そこでしかできないスタンプラリーを楽しめたりと、面白い仕掛けが満載です。

みんなで力を合わせると、いろんな事が出来る。

大切なことですね！

それでは、また！(とだたつき)

